

# 小

# 西

こにし

# ひまじ

●プロフィール● 小西 彦治 181cm 79kg 左利き  
神戸大学大学院修了（政治学修士）／市議2期・兵庫  
県議1期／柔道初段／狩猟免許／消防団歴18年

## 相生市長候補

### Mission I'm possible

その使命 私が果たします。



まちの新たなリーダーと、**本気**で育む  
新時代プロジェクト。皆さまの手で。



### 第1話 『あなたの1票の価値。』



私が皆さんの1票に  
こだわる訳、それは…

「1票では何も  
変わらないから…」



投票に行かない  
年代は不利益を  
被っているという現実。

なぜなら…



今の日本が何となく  
『おかしいな』と気が付き  
はじめている国民は多い。

政治家マメ知識：退職金について。

市長は1期4年で、報酬月額約22カ月分が任期終了ごとに支払われます。例えば市長報酬月額が100万円なら、1期が終了するごとに、約2200万円が支給されます。5期で1億円…。皆さまの税金(の一部)から支払われています。因みに、市議会議員は退職金ありません。国保料や国民年金の負担などが高く、所得税法上は、事業主扱いです。給与が高いとは決して言えない状況ではあります。

# あなたの 1票は、**451**※ 万円の 価値があるから。

※2024年度 相生市の予算268億6200万円÷相生市の有権者数23,657人×市長任期（4年）=4,541,911円  
市長任期は1期（4年）であることから、2024年度予算ベースの4倍として試算。  
市長には、予算編成権・方針決定権・人事権 3つの権限がありますので、任期中の予算ベースで1票の価値を試算。  
無投票になることにより、皆さまの1票の大きな価値が消滅してしまいます。



このまちに、  
新しい風が吹く！

そして、  
今まで投票に行かなかった人の  
半分が選挙に行くことで、



だから小西ひこじは、  
これからの時代を支えていく  
若者世代に政治が重要で  
あること伝える。

そして、今まで地域で  
頑張ってくれた、諸先輩方にも  
若きリーダーに期待してほしい。

みなさんの力が  
必要です！

今までのリーダーは長きにわたり、どのようなことを提言し、  
それが実現したのか、はたまた進まなかったのか、を示すべき。  
そして、これからの未来へ向けての皆さまとの約束は、  
何故、今までに出来なかったのか。  
私なら、1期4年で全部やる。

期待してみませんか。  
『価値ある1票』で  
新たな未来を、皆さまと。

そう信じて、私は闘う。  
自らの政治家としての経験を  
今こそ活かし、実現したい  
新たなまちづくりのため、  
地域のみなさまとの約束を果たすために。



有権者の実に半数以上が  
投票に行かないという現実。  
しかしながら、その方々が一気に  
投票というアクションを起こすことで、  
まちの政治が必ず変わる。

新たなリーダーの手腕。  
このまちのために  
何をするのか。

# 消滅可能性都市、再来!?

～このまちが、未来に消滅してしまう?～

※QRコードにてリスト添付しております。



日本創生会議が2040年に消滅の可能性がある896の自治体リストを公表した。



それは、「消滅可能性都市」

2014年、ある情報が世間を震撼させた



旧消可性都市



「消滅可能性都市」

将来人口の推計に際し、20～39歳までに、約3割の人口が大都市に流出するという仮定のもと、2010年から2040年にかけて若年女性が50%以上減少する自治体のこと

事態は楽観視できない



新消可性都市

10年前よりも152減少の744となった(脱却239、新たに追加99)が、



そして10年後、

新たに人口戦略会議が発表！

人口減少、少子化という日本全体が直面している課題を解決するため、

政治のチカラが必要だ。

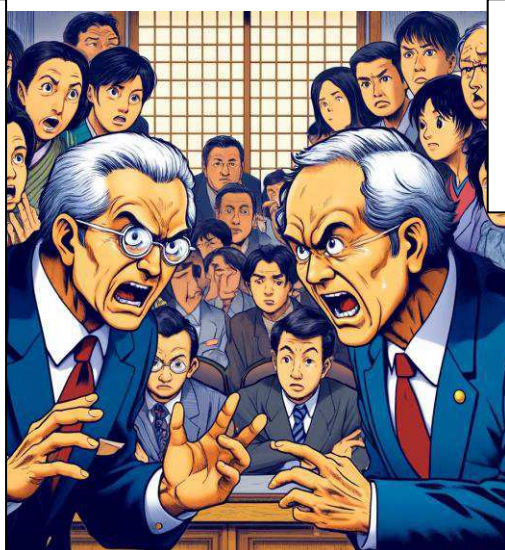


しかし、対策が何も講じられず生じた、

『失われた30年』は容易に回復しない

人が増えない中で経済が縮小すると、社会保障の持続性が損なわれる。

結果として、



近隣都市間での

『若年人口の奪い合い』が起こる。

全てにおいて後手に回った日本の政治を立て直すため、国全体の大きな船を動かそうにも、時間がかかる。



地方の自治体で独自に活かせる魅力あるまちづくりや、若年世代、子育て世代に全力で未来への投資を行う必要がある。

我々政治家（リーダー）には、子や孫の世代へ、素晴らしい日本という国、そして地域をつなげていく責任がある。



今『流れ』を変えなければ、このまちは変わらない。

そう提言して、私は政治家として培ってきた経験を活かし、まだ可能性があるこのまちのために、闘い続ける。